

2025 年度入学式挨拶

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。またご父母・保証人の皆様におかれましては、もどんなにかお喜びのことかと存じます。心よりお慶び申し上げます。本日こうして皆さんを上智大学にお迎えできましたことを、本当にうれしく思っております。

皆さんは、今日から大学生、大学院生として歩むという新たなスタートラインに立って、いろいろな思いをもっておられることでしょう。すでにいろいろと計画をもっておられる人もあれば、新しい出会いに期待している人もおられることと思います。

大学生活の始まりにあたり、皆さんが大学生活を通じて追いかけてみたいミッションは何でしょうか。上智大学もミッションをもっています。それは世界中にあるイエズス会大学の共通のミッションである「他者のために、他者とともに For Others, With Others」という本学の教育精神です。ごく短い文言ですが、その意味は大変深く重いものです。みなさんはこの「他者」という部分をどのように解釈するのでしょうか。

このことを考えるうえで、私自身がいつも思いだす風景があります。それは太平洋の島国である東ティモールにある聖イグナチオ・デ・ロヨラ学院という中学高等学校のことです。この学校はイエズス会が 2013 年に作った学校で、大変な紛争から復興を果たす中で、未来社会の担い手を育てるという目標を持って始められました。私も実際に 2013 年にこの学校を訪ねたことがあります。そこにはまだできて間もない校舎と、そこで新たな学びを共に創り始めた生徒さんとイエズス会の神父様たちである先生方がおられました。紛争時の爪痕も残るなか、そこで使われている机と椅子は、神戸にある上智学院が運営するイエズス会の六甲学院から寄贈された机と椅子でした。手づくりで一つ一つ準備される先生方や職員のご苦労も思いながら、そこで生き生きと学ぶ生徒さんやそれを嬉しそうに支える先生方の姿を拝見して、今からちょうど 112 年前、1913 年に上智大学が開学した時にも、こうしていろいろな人々の夢と希望が重なって上智大学が誕生したのだらうという思いを強くしました。

今では、同じく東ティモールに 2014 年に開学した聖ジョアン・デ・ブリトー学院という教員養成専門学校とともに、卒業生が巣立ちはじめました。なかには上智大学に留学生として入学し、卒業後、東ティモールの国際協力機構 JICA 事務所や大学院に進学する人も輩出しています。皆さんも入学後に聖イグナチオ学院出身の学生さんに出会われるかもしれません。

上智大学とはまさに今お話ししたようなミッションを持っている大学です。すなわち、社会の中で弱い立場に置かれた人々と寄り添い、共に活動を行うなかで、未来に向けての新し

い可能性に挑戦していく大学です。開学以来大切にしてきた多様性の尊重と、他者とともにあるという歴史や伝統を大切にしながら、未来志向で前へ進んでいく学びの場です。

先ほど皆様のご入学を祝福して聖書の一節マタイによる福音の第 18 章が朗読されました。その中に登場する「子どものようになる人」という解釈についてはいろいろな考え方があると思います。私はこの「子ども」に、素直な心と知的好奇心を持った人であると同時に、社会的に不遇な立場に置かれている人、そしてそれに謙虚に寄り添う人という意味を見いだしたいと思います。自分とは異なる境遇や文化の違いを超え、そうした人々から学ぶことの大切さを考えた時、上智大学がなぜ開学以来、留学生をはじめとする様々な学生さんを積極的に受け入れてきたのかということについても、それは多様性を重視し、そこから学ぶことを大切にしていたからにほかなりません。

今でこそ持続可能な開発目標（SDGs）により、多様性の大切さや、だれ一人取り残すことのないという目標が国内外で広く語られていますが、上智大学はそうした多様性と、それと同時に皆を受け入れるという包摂性、そしてそれぞれの人にとって意味のある学びの公正性ということを、大学のミッションとして開学以来大切にしてきました。

そしてもうひとつ、私たちにとって大切なミッションは、ご自身のミッションを持ってこれから羽ばたいていこうとされている皆さんを応援するというミッションです。学部生の皆さんは入学式を迎える前から「学びを学ぶ」という基盤教育のプログラムを受けてくださったことと思います。実はこのプログラムも皆さんのミッションを応援するひとつです。これから皆さんは様々な専門の学びを進めます。先生方が行っている各分野の最先端の研究にも触れながら、上智大学のキャンパスにある人文、社会、自然科学の 9 学部 29 学科、10 研究科、1 プログラムの豊かで多様な学びの世界に進みますが、基盤教育はその際に、ぜひ皆さんの学びの土台としてほしいと思い準備した上智大学ならではのプログラムです。また皆さんが学びを深めていくうえでも、入学後は高学年向け教養プログラムも用意されています。知識それ自体はどんどん刷新され、塗り替えられていきます。あるいは今日のように AI が様々な形で活用されるようになった時、私たちは知識の使い手として何をどう考えたらよいのでしょうか。これから皆さんが学んでいくうえでは、その軸を考えてほしいと思っています。

学びには様々な形があります。知識や語学を身につけることはもちろん大切ですが、私たちが願うのは、皆さんがそれらの知識を用いる力、それは創造性であったり、様々な多角的視点から物事を考える批判的思考であったり、あるいはそれらを伝える表現力、コミュニケーション力、そしてさらにはそれらを自分のミッション実現のために展開する力です。皆さんの学びが、お一人お一人のニーズに即した意義のあるものとなること、そしてそうした智を身につけた皆さんが、これからの社会の担い手として大きく羽ばたいてくださることこ

そ私たちの何よりの願いです。

これからの大学生活では様々な道が皆さんの前に開かれています。皆さんの大学生活が素晴らしいものとなりますよう心からお祈り申し上げます。ご入学本当におめでとうございます。

2025 年 4 月 1 日
上智大学長 杉村美紀